

第9回 群馬県域移動性（モビリティ）・安全性向上検討委員会 議事要旨

開催日時：平成24年6月29日（金） 13:00～14:30

開催場所：高崎河川国道事務所4階会議室

出席者：前橋工科大学教授	湯沢 昭（委員長）
一般社団法人 日本自動車連盟 群馬支部事務所長	斎藤 裕一（代理出席）
群馬テレビ(株) 報道制作局長	金井 正明
社団法人 群馬県トラック協会会長	三浦 文雄
群馬県警察本部 交通部 交通規制課長	中嶋 正浩
群馬県 県土整備部 道路整備課長	古橋 勉
群馬県 県土整備部 道路管理課長	依田 哲太（代理出席）
東日本高速道路(株) 関東支社 高崎管理事務所長	佐久間 仁
国土交通省 関東運輸局 群馬運輸支局長	前川 雅弘
国土交通省 関東地方整備局 高崎河川国道事務所長	阿部 悟

（敬称略）

議事

- （1）移動性向上の取り組み状況
- （2）今後の渋滞対策の推進
- （3）渋滞箇所等の特定方針（抽出指標の検討）
- （4）検討スケジュール

議事要旨

- （1）高速道路の交通状況・対策
 - ・ 関越道の上り線に渋滞対策として、渋川伊香保・本庄児玉・花園・鶴ヶ島の4箇所
で、1. 5km～2kmの付加車線を設けたところ対策の効果が現れている。
 - ・ 群馬県内における高速道路の休日渋滞の特性として、午前中は下り線が、夕方は上
り線が混雑している。
 - ・ 上り線については、上信越道を利用した軽井沢方面からの交通と、関越道を利用し
た利根沼田方面からの交通の合流により藤岡ジャンクションで渋滞が発生する状
況である。
- （2）一般道の交通状況・対策
 - ・ 一般道では、右折レーンが出来ると交通の流れが劇的に改善する。信号機の調整も
含めるとかなり抜本的な対策になる。
 - ・ バス運行の立場から見ると、観光地に向かう道路では多くの箇所で拡幅等の対策が
行われていると認識している。
 - ・ ソフト対策として、県警において公共車両優先システム（PTPS）の導入を
継続的に実施しており、対策効果が現れている。

(3) 渋滞対策の特定方針（抽出指標の検討）

- ・ 高速道路の休日渋滞を重点的に考えていく必要がある。
- ・ 群馬県の地域特性として、観光の視点は重要である。昨年実施されたディステーションキャンペーンのアフターキャンペーンも予定されており、注視する必要がある。
- ・ 群馬県は一人当たりの車の保有台数が多い。一人当たりの移動距離が短く、かつ移動回数が多いといった車の利用特性を踏まえて検討を行う必要がある。
- ・ 北関東道の全線開通などを契機に、太田市周辺では物流の流れが大きく変化していると思われることから、分析を行ってほしい。

(4) 移動性向上に関する検討の視点

- ・ 対策の検討にあたっては、ハードだけでなくソフト対策も重要である。
- ・ 東日本大震災を踏まえた検討が必要である。例えば、ミッシングリンクや孤立集落の考え方を指標又は思想として取り入れる必要がある。
- ・ 群馬県は雨災害が多い。東日本大震災の経験から災害対策は広いスパンで対策を検討してほしい。
- ・ 災害対応については、生活の観点からネットワークの考え方も必要である。

(5) 検討スケジュール

- ・ 地域の渋滞箇所の特定について、8月下旬を目途にとりまとめ。
- ・ 年内を目途に対策を含むとりまとめを予定。

以上